

カトリック六甲教会 教会報

2009

7

No.451

感謝のうちに



主任司祭 松村 sj

桜舞い散る4月、六甲の門をくぐり「ご無沙汰していました。13年ぶりに戻ってきました。」と本来ならご挨拶し、着任しなければならなかったはずなのに、自己健康管理欠如の結果、大遅延の失態をとり大変皆様にご迷惑お掛けしましたこと、心よりお詫び申し上げます。特に、片柳神父には遅延中、主任代理まで務めて戴くと同時に、信徒の皆様におきましては主任代理を支え、つつがなく種々の奉仕職を果たして下さったこと、心よりお礼申し上げます。また、東京のイグナチオ教会に移られた桜井神父にも暖かいご配慮を賜り恐縮しております。さらに、病気回復のために沢山の方々からお祈りを頂戴しましたこと、この紙面をお借りし重ねてお礼申し上げます。“ありがとうございました。”

さて季節の移り変わりは早いもの、春爛漫からあっという間に7月に入り、今年も六ヶ月を無事に過ごすことが出来ました。しっとり潤いをもつ六甲の山々は、木々の緑を一層華やかにし倍増された豊潤なイオンが、陽光と共に神戸の街へと注いでいるようです。

その初夏の日差しの中、教会への坂道を額に汗して来られる皆様のお姿に“神との出会いの喜び”を感じないではられません。何も知らない道行く人には不思議な光景、しかし、その不思議に映る光景が、かすかな福音宣教の初穂になっているのです。

信仰の薄い私は、皆様のそのお姿を拝見させて戴くとき、どうすればマリア様のように“信仰の模範”と言われるようになるのだろうと自問させられます。“イエス様についてよく知る”こと、そして“神様の愛についてよく祈ること”でしょう。いずれも間違いではないでしょうが、具体的にどのようにすれば良いのかまだよく掴めていません。すでに還暦を過ぎた団塊の世代ですが、いまだこの様な信仰しか持っていないことを恥ずかしげもなく、文字にしてしまう愚かさを恥ずべきかも知れません。

あれから13年、神様の望み通りに成熟している六甲共同体で、皆様のお力を借りながら、これから一歩一歩着実に神の愛に向かって、共に祈りと交わりを深めたいと願っています。またパウロ年の閉幕に当たり、絶対に信頼できる神の存在を決して見失うことのなかったパウロのように、日々回心し“新しい人”に生まれ変わることが出来るよう互いに努めましょう。

不確かな時代、ややもするとつい誘惑に先導され不信仰に陥ったり、思い通りにならない状況から自暴自棄になったり、現世御利益主義に傾いたりします。確かに、現代においてパウロのような回心は無いです。しかし、パウロや殉教者たちと同じ道へと招いてくれた神への信頼を忘れず、“神の愛を証する共同体”をさらに確証できるよう協働していきましょう。



◆ 松村主任司祭のプロフィール

- ・1947年 三重県亀山市に生まれる。
- ・1985年 イエズス会入会
- ・1993年 東京・イグナチオ教会にて司祭叙階
- ・1994年 神戸・六甲教会助任司祭
- ・1997年 イエズス会管区本部（財務）で働く
- ・2004年 山口・徳山、下松教会協働司祭と幼稚園園長
- ・2005年 山口・山口教会（ザビエル記念聖堂）助任司祭と地区長補佐
- ・2006年 山口・山口教会（ザビエル記念聖堂）主任司祭と幼稚園園長
- ・2009年 神戸・六甲教会 主任司祭



松村神父様 歓迎の辞

“松村神父様、お帰りなさい” 六甲教会のおおかたの皆さんはこの様な挨拶になると思います。13年振りに六甲教会に戻って来られました。13年前2年間この地六甲で宣教司牧活動をされました。あの阪神・淡路大震災を挟んでの2年でした。大震災の折には信徒とともに地域の人達の救援活動に東奔西走されました。六甲教会にはその時の“戦友”が沢山おられると思います。13年の年月、当時小学校1年生だった子供は20歳、高校3年生だった生徒は30歳になっています。50歳だったサラリーマンは定年を迎えられています。それ以上だった方々はそれなりのお歳になっておられます。松村神父様もさぞ感無量の想いをされているのではないのでしょうか。

神父様はこの13年の間、ヨーロッパでの修道、イエズス会日本管区本部では財務担当、山口教会では主任司祭、幼稚園園長先生、観光協会のお仕事と非常に幅広い経験を積んでこられました。そしてこの度今日、私たちはわたしたちの六甲教会の主任司祭として神父様をお迎えすることが出来ました。誠に嬉しい限りです。私たち信徒をどうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。最後になりましたが、5月12日には胃の手術をされました。どうか決して無理をなされずゆっくりとお進めください。

“松村神父様、お帰りなさい” 歓迎の言葉とさせていただきます。 （評議会議長 川合）



松村神父がカトリック六甲教会の主任司祭として赴任されたこと、私たち信徒一同大変嬉しく、大歓迎の意を表したいと思います。

赴任されて以来含蓄のあるお言葉をいただいておりますが、中でも特に印象に残っているのは歓迎会の席でのお話です。「弱者に対する配慮を！」は、私たちカトリックの信徒として最も留意しなければいけないことのひとつだと思います。「ひとりひとりがそれぞれの利益を追求していけば（神の）見えざる手によって社会の富が極大化される」というのは自由主義の考え方の原点であり、一見合理的に見えますが、歴史的にはいろいろな副作用を抱え、修正を余儀なくされてきました。私見ですが、日本の諸システムはアメリカ型70%、西ヨーロッパ型30%程度で、強者には有利な社会になっています。今後は西ヨーロッパ型へシフトしていく必要があると思います。もとよりこのような変革を行うことは簡単なことではないでしょうが、少なくとも私たちは松村神父のお考え方を心に留め（どんな小さな事でもいいから）日々の行動に反映していくよう努力したいと思います。最後になりましたが、手術後日も浅く、また暑さも厳しくなっていますので、どうぞお体を大切にされ一刻も早く全快されますよう祈念いたします。 （壮年会会長 榎木）



“松村神父様ようこそいらっしゃいました。”

6月14日松村神父様歓迎の小宴が催されました。私達は、神父様のお体に負担のかからないようにと、相談を重ねて準備をいたしました。

当日は、滞りなく神父様と共に、パーティーを持つことができ、「神父様が来られた」という実感を改めて深くいたしました。本来なら、復活祭の後、教会の庭の花々が美しく咲き誇る頃、私達は神父様をお迎えする予定でした。ところが、思いがけない神父様のご病気の報に接しました。

この2ヶ月間、私達信徒は、驚きと不安のうちに、神父様の手術が無事に終わることを祈念し、そして、予後の恙無い事を、ひたすら祈り続けて参りました。そして、6月に少しスリムになられた神父様をお迎えすることが出来、神様への感謝の念でいっぱいです。

日増しにお元気を取り戻されている御様子に心から安堵しております。これからも、くれぐれもお体に気を付けられて、六甲教会の神父様として私達を導いて下さいますように、よろしく願いいたします。

(婦人会会長 牛尾)



2009年度小教区評議会年次報告会議事録

- ・日時： 2009年6月14日(日)11時ミサ後～
- ・場所： 大聖堂 (参加人数:約120名)



1. 評議会議長挨拶 (川合評議会議長)

＜「信徒総会」から「年次報告会」への変更経緯の説明＞

昨年までは「信徒総会」で、信徒が集い、新役員・決算／予算会計等の決定・承認をしていたが、それは評議会ですべきことである、との大阪大司教区からの指摘があったため、「信徒総会」を改め、評議会の決定事項を信徒に報告する場として、今年度より「年次報告会」を行うこととした。

2. 議 事

(1) 評議会新役員・評議委員紹介 (川合評議会議長)

- | | |
|--------------|--------------------|
| ・主 宰：松村 主任司祭 | ＜信徒会各会会長・コーディネーター＞ |
| ・議 長：川合 | ・壮年会 榎木 ・婦人会 牛尾 |
| ・副議長：詫 ・志水 | ・三日月会 堀川・青年会 村田 |
| ・書 記：榎木・牛尾 | ・地区会 大橋 |

＜専門部会コーディネーター＞

- | | |
|-----------|-----------|
| ・宣教部 藤原 | ・中高生会 深山 |
| ・教会学校 前田 | ・典礼部 橋 |
| ・広報部 蛭田 | ・社会活動部 北上 |
| ・養成部 宮根 | ・行事部 川崎 |
| ・施設管理部 久本 | ・財務部 松平 |

(2) 規約改定関係報告 (鈴木規約改定委員会委員長)

＜規約改定の経緯＞

旧規約が不十分である(宣教・司牧の部会がないこと、各部代表者数の不均衡等)との大阪

大司教区の指摘に従い、2007年に規約改定委員会を発足させ、規約のみなおし、教会の将来をみすえた組織改正を行った。2009年3月に池長大司教より正式に認可を得て、復活祭時に新規約を信徒に配布した。

<主な改正点>

- ・信徒会・専門部会から1名ずつ公平に評議会に参加し、信徒会・専門部会の役割を明確化した。
信徒会は親しく交わる教会の基礎を成す任意団体とし、専門部会は司牧・宣教活動を実際に行う執行機関とした。専門部会に、今まで信徒会であった「教会学校」と「中高生会」を加え、また「宣教部」が新設された。
- ・特定の人だけではなく、みんなで支え合い、信徒が主体性をもった、広く開かれた共同体を目指す。

(3) 信徒会・専門部会の2008年度活動報告及び2009年度活動方針

各会・各部会の代表者・コーディネーターがスクリーンで資料を示しながら説明。

(4) マスタープラン検討チーム (川合 チームリーダー)

今後の六甲教会の建物・設備等ハード面のマスタープラン(5～7～10年の中期投資計画)作成を目的とする、主任司祭直轄の検討チームとして本年度発足。6月20日キックオフミーティング。

チームメンバー (任期2年)

- ・松村 信也 主任司祭 ・チーム長：川合 弘一
メンバー：藤原、武田、福田、蛭田、久保、高木、橋岡、前田

(5) 2008年度教会会計報告 (西川 教会会計担当) 別表参照

(6) 2008年度評議会予算支出実績及び2009年度予算報告 (松平 評議会財務担当) 別表参照

(7) 質疑応答

<新組織について>

質問：・専門部会の他部会名称に合わせて、「中高生会」→「中高生部」、「教会学校」→「教会学校部」に名称変更をしてはどうか。

- ・その性質上、中高生会・教会学校は「信徒会」ではないか。また、「三日月会」を「信徒会」に入れるのは不自然ではないか。
- ・「信徒会」をまとめる役割としての「地区会」の扱いには疑問を感じる。

回答：ご指摘の各点については、今後の評議会でも検討・議論したい。

<教会会計報告について>

質問：・特別献金のうち、営繕献金1040万円(2009年1～3月)の、その後の経過はどうなっているか。

回答：6月累積額約1,300万円。総工費2,600万円のうち半分にあたる額が集まった。献金目標額は1,500万円であったが、6月末で終了とし、7月号教会報で最終報告の予定。

3. 松村主任司祭挨拶

長時間ではあったが、六甲教会の現状・将来に関して、みんなの共通理解の場となって良かった。共同体はひとつの「円」である。その「円」を強固にし、六甲教会を優しく・親切的な共同体にしていこう。



導きと恵み そして堅信式

福田

2009年5月31日、私はカトリック神戸中央教会で行われた合同堅信式で堅信の秘跡を受けた。教会が新しくなってから訪れるのは始めてで、第一印象はステンドグラスのある綺麗で立派な教会だなと感じた。私には2人の娘がおり、長女が今回同時に堅信を受けた。成人の合同堅信式は今回が最後とあって、親子で受けられる喜びもひとしおであった。

代父には結婚式でお世話になった藤原さんをお願いし、快諾して頂いた。藤原さんに初めてお会いしたのは結婚準備セミナーのときで、当時私は洗礼を受けておらず、住吉教会の諏訪神父さまに「宗教が違う、又、洗礼受けないと結婚式はできないか」などと疑問があり、お尋ねしたところ「六甲教会で結婚準備セミナーがある。洗礼は自分が本当に信仰心のついた時に受ければ良い。自分らしくするのがカトリックの教え」だと言われた。何か自分の中の重かったものが取り払われた。そして藤原さんを紹介して頂いた。連絡したところすごく優しく、そして気軽に話をして下さいました。その時、もし洗礼を受けるなら代父をお願いしようと心の何処かでそう感じた。そして結婚準備セミナーを数回にわたって受け、結婚式も藤原さんや友人などに協力してもらい、無事に行う事ができた。何年かたって、私は義妹末子の代父になってほしいと頼まれた。その時私はイエスさまが死んで葬られ、そして復活を遂げられた、33歳になっていた。これも導きではないか、そして恵みにも感じ、私は妻の国ペルーへ向かった。そして洗礼を受け、同時に義妹末子の代父となった。(私の代父は義父母) 帰国した後、「まだ堅信を受けていない。受ける必要がある。」と六甲教会で知る。堅信というものがあることすら知らなかった私はびっくりもしたが、また流れにも任せた。また数年が立ち、今年2月22日(日)(私の誕生日)から4回にわたり、コリンズ神父様指導のもと堅信準備会が行われた。そして導きやお恵みについてもお話をさせて頂いた。堅信を受けるには代父が必要と知った。(今考えると当然だが) 突然のことに友人にしてもらおうかとも考えたが、妻が「藤原さんをお願いしたら」といった。そのとき当時の記憶が蘇り、「そうだ藤原さんをお願いしよう！」・・・当然私の洗礼の代父は義父で、すごく幸せに感じていたが、最初に私の心に感じたことに神様が答えてくださった。そして導き、恵みを下さった感じがした。コリンズ神父様に堅信準備会で言われたお言葉で、「神のお恵みは一言で言い表せないもの。」まさにこの事だと感じた出来事だった。池長大司教様が堅信式のミサの中でわかりやすく堅信について述べられた。「洗礼を受けて神の子となり、信仰生活を経験し、堅信によって信仰を深めることができる。堅信は子供から大人に変わるとき。」この言葉を胸に信仰をさらに強め、これからも歩んでいきたい。



堅信の秘跡をいただいて

堤

私は1999年4月3日復活徹夜祭の日にご縁があって、スペイン宣教会のホセアントニオ・イズコ神父様から、主人と共に受洗の恵みをいただきました。昨年自宅の住所表示の変更があり、その事を事務所に届けましたところ、堅信の秘跡が済んでいない事がわかりました。当初は困惑しましたが受洗から10年目という節目の年に、神様からもっと信仰を深めるようにと呼びかけられている思いがいたしました。コリンズ神父様に2月から教話を受け、成人の受堅者6名で堅信の為の準備をし、最終日には黙想会の中でゆるしの秘跡に与らせていただき、すがすがしい気持ちで受堅の日を迎えました。5月31日聖霊降臨の主日に神戸中央教会で61名の方々と共に、池長大司教様から堅信の秘跡を授けていただきました。当日は普段のミサと違い多少緊張した空気の中で堅信式が始まり、いよいよ司教様の前に立ちますと霊名を呼びかけられ、聖別された油で額に十字架のしるしをしていただいた時は、神様と深くつながり自立した信者として、周りの人々に信仰を伝えてい

かなければという思いで身が引き締まりました。その後コリンズ神父様より「おめでとうございます」と声をかけて頂いた時はホットして心から安心感に包まれ、これまで堅信式の準備をして下さった方々に感謝の思いが湧き上がってまいりました。これからも六甲共同体の一員として皆様と共に神の国を告げ知らせるために、微力ながらお役に立てればと思います。



堅 信 式

福田

私は5月31日堅信式を受けました。堅信式を受けるときはすごく緊張しました。名前を呼ばれて立ったりしたときや御聖体を頂くとき特に緊張しました。

堅信を受け終わった後は食事会がありました。そのとき食べた料理がとても美味しかったですし、いろんな人達から「おめでとう」といってもらい嬉しかったです。いただいた記念品に書いてあった言葉が胸にグツときました。心にもっとも響いた言葉は「生まれ変わる」という言葉です。神様と前よりももっと近づいた気がします。

これからも毎週きちんと教会に行ってミサを受けて信仰を強くして行きたいです。



堅 信 式

片山

初めて堅信を受けると聞いたとき、「堅信って何だろう？」と、あまり実感がわきませんでした。だけど、片柳神父様と一緒に堅信を受ける人と一緒に勉強していくうちに、だんだん堅信について理解しながら、自分が何をすることも分かるようになっていきました。本番では、とても緊張したけど、なんだかすごく嬉しかったです。



祈りの道場（5月29日）

ルイス

霊想に基づいた祈りのプログラム、この日のトピックは霊想の原理と基礎でした。

英神父様が四回にわたりパウロの「フィリピン人への手紙」を読まれて、お話しなさいました。その後で沈黙のうちにそれらのことを自分の日頃の生活と照らし合わせて、思い巡らしました。幸せを願って、私たちは富、名誉、健康等を追いかけていますが、本当の幸せは何でしょうか？私たちは何が目的で生きているのでしょうか？忘れてならないのは私たちの本当の幸せは、神様の永遠の愛の中で生きることです。そのために、神様は私たちにこの世のすべてのものを賜物として下さいました。

しかし、これらの賜物も、時には神様に近づく助けにならず、妨げになってしまいます。ですが、神様は私たちに選ぶ力をくださっています。その力をよりよく発揮するには霊的自由と普遍心を育てていく必要があります。様々な人生の中で物事がはっきり見極められない時でも、より良い道を選べば、神様の愛に少しずつ近づくでしょう。

この日の黙想会に参加させて頂いて、本当にありがとうございました。一日を人生の大切な問いと向き合ったお恵みに感謝しています。ごミサの時に歌った“ガリラヤの風薫る丘で”はいつ聞いても感動します。

篠山で神戸地区大会に参加！

鈴木



6月7日（日）「篠山で会おう きずなの恵み」のスローガンに込めて、神戸地区11のカトリック教会のバスや車が篠山城の駐車場になかよく集結していました。ほかの教会の人たちは早朝に出発し

て、私たちが着いた 11 時半ごろにはもう篠山の町をひと巡りされて、会場周辺にお弁当の輪ができていました。私たちはどこでお弁当かなと思っていると、川合さんの機転で、だれもない篠山城跡の大書院前の芝生広場でゆったりと食べることができました。よく見ると「城内飲食お断り」の立札、「なるほど・・・」

さて食後、会場へと急ぎます。立派な「たんば田園ホール」のロビーにはもういっぱいひと、神戸地区評議会役員のお懐かしい顔も、またホールの壁には各小教区の個性的な紹介パネルがそれぞれ展示されて、広い三田地区では宣教の大変さがよくわかる内容、蛭田さんご苦勞の六甲のパネルも一段と光っていました。入口で立派なプログラムを頂き、ホールの中へはいると、座席数 790 のほとんどが埋まっているようなすごい数の信徒のみなさんが地区別にまとまって着席されています。

松浦司教様と大勢の司祭団の司式でミサは荘厳に始まりました。六甲では聞けないようなベトナムの聖歌や初めて聞いた歌が歌われたりしました。またミサの中で北ブロックの堅信式が行われ、4名の女学生が受堅され、会衆から祝福されました。

ミサの後はお楽しみ祝賀会。「三十路バンド」。にわかづくりとは思えない息の合ったロックバンドにみんなびっくり。篠山の集会所の歴史紹介、ジャズダンスに続いて、圧巻は洲本教会の「阿波踊り」。かわい「こどもの連」に続いて登場の大人の輪の中に、なんとグイノ神父の浴衣姿があるではありませんか！ひょうきんな踊りに思わず大笑い。松浦司教様もつられて、舞台へあがられるというハプニングもありました。そのあと飛び入りで「たかとり教会」のベトナム獅子舞があり、小さい子供たち3人で舞う珍しい演技に感動しました。最後は教会対抗クイズ、六甲の松平さんの名司会で楽しいひと時が盛り上がりました。

六甲からは片柳神父が共同司式されました。また現地に早くから行って準備をされた役員の方の筑田さん、松平さん、バスでお世話下さった川崎さん、松島さんほか全員で46名が参加しました。次はもっとたくさんの方が参加できますように。 神に感謝！



舞台中央で乱舞するグイノ神父に舞台左から踊りながら
近かざる松浦司教



グイノ神父



松浦司教

参加された六甲教会の
みなさん
→





みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

何のために

ヨハネ 三好

Yahoo プログラムを探索していたら「みのもん神父のよもやま話」と言うのがあった。珍妙なタイトルなのでイタズラかと思ったら、本物の神父、名古屋教区の神父だった。その中の「説教案」は、読んでおくとよいと思う。六甲教会の説教ばかりでなく、他の教会の神父の説教に接することも必要だと思う。Laudate にも教会や信徒などのサイトへのリンクが載せられている。こんなものも読んでみるとよい。

はっきり聞取れないミサの説教、聞取れても右から左へ抜けてしまう説教。音声はその場で消えてしまうが、文字にすれば残り、説教も続く。主日の説教を文書にして随時閲覧できるようにしてはどうか。図書室の事業に相応しいと思う。

わが小教区は大阪教区ないで最大の小教区である。ウェブページやブログを覗いていると、これでよいのか、何のためにここにあるのか、焦りさえ覚える。

御心が天に行われますように、地にも行われますように

山本

主の平和

旧約聖書の創世記 1 章 1 節に「神は天地を創造された。(略) 神は云われた。『我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。』」「神は彼ら(人間を)祝福して云われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物すべて支配せよ。(略)』」と人間に託されました。

産業革命以来、人々は石油、石炭をエネルギー源として、物を多量に作り始めました。医療の分野、その他でも人類に貢献したものは多々あり、私もその物でお世話になった分はありますが、今日に至って百年来の二酸化炭素が地球上空にたまり、地球温暖化をもたらし、その被害は全世界に及んでいます。主なものを挙げると、気温上昇が海面上昇となり、島が沈み始め、気象上の熱波は干ばつ、ハリケーン、北南極その他永久凍土が解け始め、白熊も生息地を失い、絶滅が心配されているのはご存知の通り。その他、失われていっている動植物種の増加。汚染物質の増加は人々の健康に良い影響を与えない。数えたらきりが無い程。

人間がもたらした地球への危害を神様はどう見てらっしゃるのでしょうか。私たち人間は万物の造り主でいらっしゃる神に、これからも永久なる神への讃美と感謝を子や孫や全人類が永久に地球上でもらいたいと強く願い、祈ります。出来るだけ早く CO₂ の排気ガスを出さない方向に全世界の人々が一致して気付き、はっきりとした目標を掲げ、それに沿って行動してほしいと心から祈ります。

主日、大祝日の意向ミサについて

主日、大祝日のミサは、イエス・キリストに捧げるミサであり個人のみサではありません。したがって、主日・大祝日の大聖堂9時、11時のミサでのご命日等の追悼（意向）はお受けできません。但し、主日前晩土曜日のミサ、主日7時、海星病院の17時のミサではお受けします。

また、主日あるいは別の日時を望まれる方は、直接、司祭にご相談ください。

尚、お申し込みは、すべて事務所までお願いします。
(主任司祭 松村)



📖 図書紹介 『ある神(?)の名によって』(写真集)

写真家：E. Rubio 解説：J. Masia

この本は、全世界の諸宗教についての写真です。写真を通して訴えたいことがあります。それは宗教の名によって良い事がたくさん行われたこともあれば、宗教を口実にしてテロや戦争を引き起こした者もいます。それについて解説で書かれています。

この本の英語版とフランス語版の題は『聖なる場所と聖なる儀式』になっておりますが、元のスペイン語版は「En el nombre de un dios」となっております。そこで『神(大文字の Dios)の名によって』と言うのではなく、『ある神(小文字 dios)の名によって』と書いてあるのにはわけがあります。というのも、神の名によって憎しみや戦争や迷信や熱狂心などを正当化しようとするれば、それは「神の望み」であるはずはないのです。

目次は次の通りです。

序文：E. Rubio 解説：J. Masia

- | | |
|----------------|----------------|
| 1部 巡礼・聖なるものへの旅 | 2部 神殿・聖なるものの住家 |
| 3部 供え物と象徴 | 4部 魂の風景 |
| 5部 逆説的な解釈 | むすび：J. Masia |

尚、スペイン語版は、六甲教会図書室に備えてあります。

J. Masia 神父

書棚を眺め巡ってこんな本を見つけた。

『日本の文章』 外山滋比彦 著 講談社学術文庫 648、1984年初版。

書かれてあることには共感するところが多い。

『日本語の個性』 外山滋比彦 著 中央新書 433、1976年初版。

この中の1章「宗教と言葉」には大いに共感を覚えた。

それにしてもカトリック関係の本はどうしてこうも面白くない本が多いのだろうか。面白くなければ読んでくれない。読んでくれないければ本屋の棚からも追い出される。宣教にはほど遠い結果になる。カトリックの宣教はともすれば「俺達はこうだ」という主張が先に立って、相手には「どう

ぞご随意に」となる傾向がある。この2冊の本は、我々も心すべきことを示していると考える。

ついでにもう一つ。ネットサーフィンをしていて、たまたまこんなサイト (<http://www.febcjp.com>) に出会った。もうご存知の方も多いかもしいないが、まだの方は一度覗いてみられては。カトリックだけの内容ではないから、それなりの心構えと選択が必要だが、外の社会を知らなければ宣教は覚束ない。 三好



各部だより



婦人会

7/26(日) 婦人会・壮年会・青年会
との合同例会 11:00 ミサ後
(詳細は後日、チラシでお知らせ致します。)

お申し込みください。

7/25(土) 10:30~12:00 命の講座 第4回
「赦しとつぐない」

於：第1・2会議室

講師 マシア神父

三日月会

7/5(日) 三日月会喫茶(イグナチオホール)
9:00 ミサ後~13:00
※ 皆様のご利用をお願い致します。

8/9(日) 平和旬間合同礼拝 於：大聖堂
司式：松本聖一牧師(ルーテル教会)

養成部

6/28(日) 13:30 パウロ年講演会
「パウロ年終りにあたって」
講師 百瀬文晃神父(山口教会)

青年会

7/12(日) 12:30 ~ 定例会 (助任司祭室)
内容：「分かち合い」等を予定
26(日)「婦人会・壮年会・青年会」
合同例会
(定例会お休みです)

7/24(金) 10:00~15:00 祈りの道場
15:00 よりミサ
指導 片柳弘史神父

社会活動部

次回連絡会 9/4(金) 10:00 ミサ後 予定



お知らせ



【合同例会】

「青年会・婦人会・壮年会」合同例会を下記の通り実施いたします。
ご都合のつく方、ご参加ください。

日時 7月26日(日) 11:00 ミサ後

講演 12:15~13:15

講師 大木 神父 (イエズス会)

演題 『ネパール生活30年』 於：主聖堂

懇親会 13:30~15:00 於：イグナチオ・ホール
ネパールの写真が展示されます。



大木神父さま

【三日月会より】

三日月会 コーディネーター 堀川

六甲教会に所属され、今年1月～12月までに70歳になられる方は三日月会の会員となれます。昭和14年1月～12月生まれの37名の方です。

三日月会は毎年7月、8月、12月以外の9ヶ月、第3月曜日午後2時から約2時間、小聖堂でのミサに続きイグナチオホールでお茶とおやつをいただきながら、神父様の信仰上のお話を伺い、その後楽しいビデオ鑑賞をしております。

決して強制ではありませんので、ご希望の方はお気軽にご参加ください。

今年の予定は9月21日(敬老の日・三日月会総会)。10月19日。11月16日です。ご質問のある方は堀川、または事務所までお問い合わせください。

【社会活動部より】

- 7/1 (水) 10:00 ～ 手芸の集い 於：第1・2会議室
どなたでも参加ご自由です。
- 3 (金) 初金ミサ後 社会活動部連絡会
於：第2会議室どなたでも参加ご自由です。
ボランティアに興味のある方どうぞおいで下さい。
- 11 (土) 10:00 炊き出し (イグナチオホールお台所)
小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達の話し相手だけでもOKです。
- 16 (木) 14:00 ベタニアの集い (イグナチオホール)
聖体拝領式&茶話会。 奇数月第3木曜日開催。
- 24 (金) 9:30 ともしび ケーキづくり (お台所)



7月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
3	金	聖トマ使徒	初金 7:00 10:00 ミサ
4	土		14:00 パウロ年閉年ミサ(大阪カテドラル)
5	日	年間第 14 主日	17:00 海星病院ミサ
11	土	聖ベネディクト修道院長	14:30 教会学校終業式・ホールミサ
12	日	年間第 15 主日	10:15 小教区評議会 17:00 海星病院集会祭儀
15	水	聖ボナベントウラ司教教会博士	
16	木		14:00 ベタニアの集い
19	日	年間第 16 主日	17:00 海星病院ミサ
22	水	聖マリア(マグダラ)	
24	金		10:00 祈りの道場(.15:00 ミサ)
25	土	聖ヤコブ使徒	10:30 命の講座
26	日	年間第 17 主日	10:00 壮年会・婦人会・青年会合同例会 12:00 大木神父 講演会 17:00 海星病院集会祭儀
27	月		11:00 ベビーとママの集い
29	水	聖マルタ	
31	金	聖イグナチオ(ロヨラ)司祭	イエズス会創立者の記念日 (受付業務は午前中のみ)

広報部員のつづやき

今、年老いて無力になっていく親から子へのメッセージの詩『手紙 ～親愛なる子供たちへ～』(原作者不詳、角智織 訳詞・樋口了一 補足詞、角川書店¥1050)が静かなブームを呼んでいるそうだ。源詩はポルトガル語。短く読みやすい。

一度ふれれば両親を想い、二度あじわえば自分の先を想う。心のポストに届ける手紙なそうさ。

自己主張に陥りやすい私たち。優しさや、思いやる心呼び覚ましたい。

(浮 雲)

<p>教会報8月号の発行は、8月2日(日)です。 編集会議は、7月26日(日)です。 記事原稿は、7月19日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>発行責任者 松村信也 神父</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	--